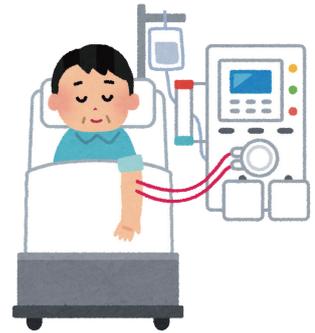


「透析療法の現状と当院の実情」

私は「人工透析室」を開設するにあたり、平成24年5月1日付で着任しました臨床工学技士の大弓浩明と申します。



また、腎臓は再生能力が低いいため、1度透析治療を始めると生涯続けなければならず、1回の治療に3〜4時間かかり、

また、腎臓はメージが強いかもしれませんが、治療するだけではなく生活習慣改善や病気の防止、つまり予防医療も大切な役割であり、これらは透析にとっても同様のことなのです。

次に当院の透析患者の実情についてですが、毎月胸部レントゲンや採血、その他にも透析に関する検査を約10種類行っています。橋本副院長が着任してからは、エコーやCT等で腎性骨異常栄養症や透析骨症の評価をしていただいております。



前任地の木古内町国保病院での透析室立ち上げの経験と民間病院や北海道立病院で培ってきた透析経験を活かし、微力ではございますが天塩町の地域医療に貢献できたらと思っております。

これを週3回行います。年末年始やゴールデンウィーク、吹雪の日も休むことなく病院まで足を運んでいただき透析を行っています。インフルエンザやノロウイルス等に感染した場合でも隔離して透析を行います。なぜなら、透析をやめてしまうと1週間から10日程で死に至るからです。また、腎不全（尿が出なくなる）となり透析をするわけですから、食べ物や飲水量（基本1日500〜600ml程度まで）の制限も厳しくなります。

透析を受けられない様にするためには健康を保つこと、つまり規則正しい生活とバランスの良い食事、適度な運動が必要です。病院は「病気になるったら治療をして病気を治す所」というイメージが強いかもしれませんが、

他職種と連携をとりチーム医療で頑張っています。最後にあります。私が、私は都市部の透析室には負けないという思いがあり、臨床工学技士の国家資格だけでなく、満足するのではなく、日々の研鑽の一環として積極的に院内の勉強会に参加し、透析技術のレベルアップと知識のリニューアル、生涯学習の促進を図るため、定期的に透析療法学会等にも参加をしています。学会参加は、他施設の知識とアイデアを吸収することができ、自分の知らない新たな知識を得ることができます。また、自分の考えと他人の考えを比較することで、自分の強みと弱さを認識することもでき、透析治療の方針転換にとても役立ちます。これらを少しでも透析患者に還元していただけたらと思っております。

さて、今回は「透析療法の現状と当院の実情」についてお話をさせていただきます。まず透析療法の現状についてですが、現在、日本の透析患者数は超高齢化社会と生活習慣病の影響によって年々増加しており、2015年末で32万5千人いるといわれています。これはおよそ400人に1人の割合で透析患者がいることになり、透析の治療に年間約2兆円もの医療費が使われています。

以上のような検査結果を用いて、今後の透析患者の方針や薬の変更等、そしてスタッフ間で情報共有をするため、林院長を筆頭に病棟看護師長や外来副看護師長にも参加をしていたり、毎月「透析カンファレンス」を実施しています。透析治療は体外循環であり、透析室スタッフのみで行える簡単な治療ではなく、

（文責 臨床工学技士 大弓 浩明）

【問い合わせ先】天塩町立国民健康保険病院 ☎（2）1058

